

令和 6 年度 彦根市文化観光推進協議会
会議録

令和6年度 彦根市文化観光推進協議会

第1 開催日時 令和7年3月28日(水) 午後2時00分から午後3時30分まで

第2 開催場所 彦根市役所 5階 第1委員会室

第3 出席者 出席委員

滋賀大学 産学公連携推進機構 特任教授	上田 雄三郎
滋賀県立大学 地域共生センター 特任講師	上田 洋平
彦根観光協会 専務理事	安居 庄二
ひこね文化デザインフォーラム 理事長	戸所 岩雄
彦根商工会議所 副会頭	上田 健一郎
彦根市観光文化戦略部長	久保 達彦
彦根市都市政策部長	古川 雅之
彦根市建設部長	關谷 真治
彦根市教育委員会教育部長	小島 久喜
彦根城運営管理センター 所長	宮川 敏明

(欠席委員)

なし

◇事務局(市関係所属)

観光文化戦略部文化財課長	井伊 岳夫
彦根城博物館副館長	渡辺 恒一
彦根城博物館管理課長補佐	藤原 康博
観光文化戦略部観光交流課課長	山岸 将郎
観光文化戦略部観光交流課課長補佐	山本 武

第4 議題

1 文化観光推進法に基づく地域計画の進捗状況について

第5 会議資料

資料1 彦根市文化観光推進協議会設置要綱・会議公開要領・委員名簿
資料2 彦根城・彦根城博物館を拠点とした文化観光推進地域計画_概要版
資料3 彦根城・彦根城博物館を拠点とした文化観光推進地域計画
資料4 計画目標の達成状況
資料5 地域文化観光推進事業の進捗状況

会議録

1 文化観光推進法に基づく地域計画の進捗状況について

◆資料 1～5 に基づき事務局から説明

○上田雄三郎会長

いろんな部門との連携が重要であり、担当課が複数に跨っているが、農業や福祉などいろんな部署との連携はどうしているのか。

○事務局（観光交流課山本）

各部署広く横断的に連携をしている。文化観光推進事業に関しては、農業や福祉などは直接範囲には入っていない。拠点施設が中心になるので、彦根城や彦根城博物館を中心にした関係部署になる。本計画以外では、他のあらゆる分野での連携はしている。

○上田雄三郎会長

例えば事業 1-⑥歴史文化発展継承事業では、文化と教育の連携など重要になってくるので、密に連携をお願いしたい。

○戸所岩雄委員

事業 1-⑥歴史文化発展継承事業で、小学生を対象とした茶道体験教室は、令和 6 年度実績参加者 24 人となっているが、令和 7 年度は 40 人を見込んでいる。もう少し大きな規模で体験するほうが意味があると思うが。

○事務局（彦根城博物館藤原課長補佐）

定員は、午前・午後各 20 人で、会場のスペースの都合で設定している。例年は 100 人以上の希望があるが、令和 6 年度は少なかった。これまでは各小学校に案内チラシを配布していたが、教育委員会の電子配信システムを活用した形に変わったので、その影響で少なかったのかもしれない。令和 7 年度は周知方法を検討したい。定員 40 人は、スペースや飲食を伴う関係で設定したものである。

○戸所岩雄委員

できない理由はわかるが、茶の精神が子どもたちに良い影響を与えるという評価の下に事業を実施されているので、より多くの子どもたちに体験してもらえるにはどうすればよいか、例えば全小学生に体験してもらうなどの考えはないのか。

○事務局（彦根城博物館藤原課長補佐）

博物館としては、体験に触れていただくという面で開催している。城西小学校は授業で博物館を活用していただいている。そういったことも含めて、学校・教育委員会と連携して事業を進めている。

○戸所岩雄委員

必要性を認めたらうえで、教育委員会と連携して政策をうっていただけたらよい。

○上田雄三郎会長

博物館に限らず、他のやり方も含めていろんな形を考えて取り組んでいただきたい。とはいえ、予算も伴うことでもあるので、委員の意見として、重点的にパワーを割いていただきたいというものとして受け取っていただきたい。

○上田健一郎委員

訪日外国人観光客数については、滋賀県自体がまだ回復していないが、インバウンドについてのプロモーションの取組、受け入れ体制整備についてはどういう風に考えているのか。

○事務局（観光交流課山本）

インバウンド誘客の取組について、事業 1-⑨多言語音声ガイドを令和 4 年度に整備、事業 3-②侍認定制度、大名や侍が使用した彦根城内の施設を活用して、侍文化を体験できるプログラムを民間事業者が開発し、認定書を発行する制度で、令和 6 年度に実施。事業 4-①HP、SNS の運用、海外向けに英語・中国語・アラビア語圏へのアプローチを令和 4 年度から発信している。周知という面では伸びているが、実際の来彦にはつながっていない。他地域では、富裕層がレストランを貸し切ったの使用等があると聞いているところもあるが、市内では、ハラル対応やお祈りの場所など施設的にはなかなか厳しいところである。事業 4-②お城 EXPO などのイベントへの出展をしている。令和 7 年度は大阪・関西万博にアプローチする。また副市長からの話でインドへのアプローチをしている。その他、計画に記載はないが英語併記の観光パンフレットを自治体国際化協会（クレア）を通じて海外のイベントで配布できるよう手配している。こちらは予算がかからない。

○上田健一郎委員

ここ滋賀を請け負っているアインズ株式会社の担当者と話したところ、フランスの旅行関係の雑誌に三重県は掲載されているが、滋賀県は掲載されていないので、知事に話をするとことだった。いろんなところでアンテナを張り、予算がなくとも活用できるところは活用し、幅広くするのか、集中してするのか、我々民間も頑張るので引き続きお願いしたい。

○上田洋平委員

満足度調査は、どういう対象や方法で実施しているのか、各項目 20 代、30 代などが高く年齢が高くなると低くなっている。若年層が高いのはなぜか。

○事務局（観光交流課山本）

満足度調査は、秋の行楽シーズンに平日・休日に分けて、近江ツーリズムボードが実施。場所は、彦根城周辺、四番町スクエアなど。アンケート方式で調査。本調査とは別に観光客アンケートを実施しているが、彦根城周辺では年齢層が高い傾向にあり、四番町スクエアでは年齢層が比較的若い傾向にあるので、そういったことが影響していると思われる。

○上田洋平委員

外国人の満足度を見ると 70 代以上の総合満足度が高く、日本人とは異なる結果になっている。20 代以下の満足度を高めるのか、または現在低い値を高める努力をしていくのか、判断材料になる。20 代以下の人は、宿泊を選ぶことは難しいだろうし、それぞれの年代の分析ができるが、この数値をどういう風に使っていくのか。

○事務局（観光交流課山本）

昨年もお話しさせていただいたが、日本人の満足度だけが目標値を達成している状況。これは、それまでのコロナ禍の行動制限が緩和されてその自由度が高まって全体的なポイントが高めに出ていると考えている。令和 6 年度の年齢別・項目別は、例えばサービスの質の満足度では、自然景観、まちなみ、観光施設などハードの部分が高め、飲食店・物販店の店員

のおもてなしのソフト部分は少し低めになっている。ソフトの部分は改善の余地があるとみている。ハードの部分は一定の評価を受けていると認識している。

○上田洋平委員

侍認定制度は、どんなものが認定されたのか。

○事務局（観光交流課山本）

侍認定制度は、外国人観光客に人気のある侍文化、もう少し広く捉えて日本の文化に関する体験を彦根城内の建物を使って行うプログラムを民間事業者が開発するもの。市からは侍の認定書を渡すというものである。条件として、城内の御書院や地震の間を使用してもらうことがあり、現時点で2件の申請が出ている。井伊直弼公が実施された殿様の茶事体験、座禅体験などを取り入れている。すべてを城内で体験する必要はなく、弓道や書道を含めてもらってよい。

○上田洋平委員

「光る君へ」「べらぼう」など従来の大河ドラマとは異なる合戦ではないテーマやアプローチが受け入れられている。特に、「べらぼう」はパクス・トクガワナと呼ばれる平和な時代で、出版文化が花開くさまを描いている。今からでは遅いが、今後を見据えて、長浜市は来年の大河ドラマ「豊臣兄弟！」に向けて、今年から委員会を立ち上げて準備している。せっかくなので、タイアップなどがあれば伺いたい。

○事務局（観光交流課山本）

長浜市は、豊臣秀吉が城主だったので直接的な関りがある。彦根市は、長浜市・米原市で結成しているびわ湖・近江路観光圏活性化協議会で、3市共通テーマとして石田三成がある。長浜市は出身地、米原市は秀吉と出会った場所、彦根市には居城の佐和山城があるので、共通テーマとして掲げて3市を周遊してもらうよう、三成めし、三成タクシー、三成会議などの事業を通じて観光誘客に取り組んでいる。石田三成が大河の主人公になったことはないが、今回の大河ドラマでも登場する可能性は高い。そのため、「豊臣兄弟！」に関しては、協議会での取組を検討している。県やびわこビジターズビューローと共に連携していきたい。

○戸所岩雄委員

少し戻るが、観光満足度調査の各項目、例えば自然景観やまちなみ、観光施設というのは、具体的なものは明示されているのか。

○事務局（観光交流課山本）

選択肢には、具体的な場所は記載しておらず、「自然景観や雰囲気」「街並みの景観」としか記載していない。評価は「大変良かった」を7として7～1の間で選んでもらっている。なお、「彦根で楽しかったことは何ですか」という設問については、「名所・旧跡」「グルメ」「文化施設」という項目はある。

○戸所岩雄委員

細分化すると煩雑になるのはわかるが、もう少しカテゴリーに分けてやってもらえるよう検討いただきたい。

○久保達彦委員

事業3-①で、3月20日に彦根城博物館リニューアルオープンしたが、オープン後の実績はどのような感じか。

○事務局（彦根城博物館藤原課長補佐）

令和3年度から令和6年度にかけて改修工事を実施してきた。3月20日にミュージアムショップや展示室の改修が完了。ショップの売り上げは昨年と比較し4倍程度となっている。来客も多く、満足度は高まったと考えている。コロナ前に比べてだいぶ回復してきている。年間入館者数は12万人を見込んでいる

○安居庄二委員

事業2-③で、立花船町線が開通し、お城トンネルも開通したことで、古沢町～立花船町線へと車の流れが変わってきている。外町交差点をはじめ、交通渋滞に巻き込まれず、彦根に来られる。現実、どの程度の効果があったのか教えて欲しい。

○事務局（建設部關谷部長）

交通量はかなり緩和されている。6月に滋賀県が交通量を調査し、開通前と開通後と比較してどのくらい渋滞がなくなって緩和が図れたか検証すると聞いている。経済的効果までは図れないが、渋滞がなくなればその分いろんなところに波及すると思われるので、結果がわかればお知らせしたい。

○上田雄三郎会長

インバウンド誘客について、彦根市が海外へ行って、現地の旅行代理店等との商談会などを実施することはあるのか。それとも役割分担ということで、観光協会や近江ツーリズムボードが行うなどしているのか。

○安居庄二委員

彦根観光協会と近江ツーリズムボードがあるが、主に観光協会は国内、近江ツーリズムボードはインバウンドという基本的な棲み分けになっている。

○上田雄三郎会長

そうすると、海外で商談会など何か行うとなると、彦根市と近江ツーリズムボードが組んで取り組むということになるのか。

○上田健一郎委員

以前、フランスにひこにゃんが行った際は、彦根商工会議所も彦根鉄砲隊を率いて随行したり、JAPAN EXPOに参加したりしたが、コロナ禍でそういったことがなくなり、現在も取組としてはできていないのが現状。

○上田雄三郎会長

予算的なものもあるが、今後、そういった戦略もありうるのか。

○上田健一郎委員

そこは彦根市との相談になるが、滋賀県も先日知事がフランス等へ行っているので、連携して進められたらと考えている。

○上田洋平委員

グリーンスローモビリティの社会実験は、実際には事業なしとなっているが今後どうなっているのか。

○事務局（観光交流課山本）

実証実験としては、駅前から彦根城までを走らせるという形で実施したが、それをそのまますぐに導入するとまでは聞いていない。

○上田洋平委員

実験はしたから、実績として記載しているということか。

○事務局（観光交流課山本）

実験はしたうえで実際の反応を見たところ。確かにゆっくりと見ていただきながら移動できるところはよいが、操縦が難しいと聞いた。導入となると、今後ずっと運行していかなければならないので、プラスの面とマイナスの面を加味した上で判断が必要。昨年の実験のものでは、ちょっと難しいのかなと思う。

○上田雄三郎会長

皆様からたくさんの意見が出たが、それを踏まえて計画を進めていただきたい。